４　資源の魅力を生かした観光の展開

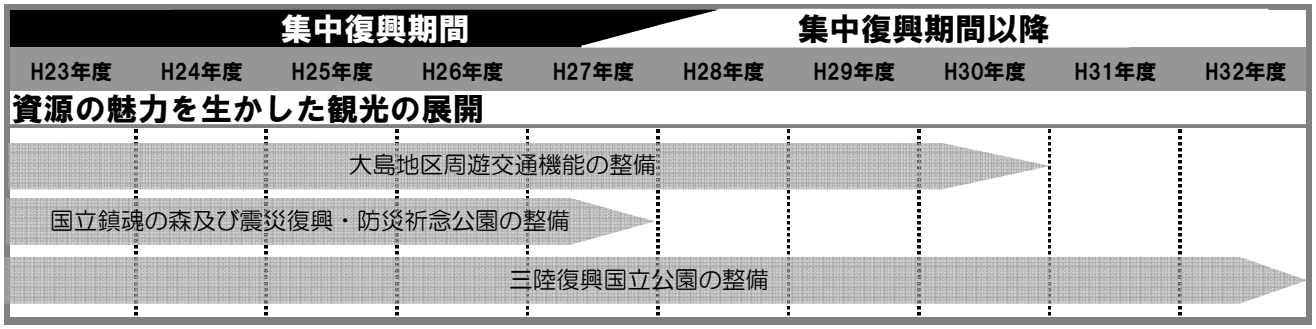
○　自然公園や観光施設、体験型観光の目玉であった水産業など、観光資源の多くが被災しましたが、本市における観光産業の重要度は一層高まっており、これまで収益的に課題となっていた観光施設のあり方を含め、本市全体の観光戦略を再構築し、集客力の強い施策を継続的に推進します。

○　被災と復旧・復興の経過を伝える観光資源としての活用を図るため、自然公園の園地整備や海水浴場の砂浜の復元、観光施設の再整備などを進めます。

○　震災の経験と教訓を新たな観光資源と位置づけ観光を総合的に推進するため、食や地域文化を活用した着地型観光に加え、被災地ならではの地域再生観光を事業化するとともに、平泉世界遺産との連携による広域観光の展開、長期滞在型観光の促進、国内外の積極的な観光誘客宣伝事業の実施などに取り組み、被災の経験を新たな観光施策につなげていきます。

○　震災の記録・記憶を保存・伝承し、自然への畏怖・畏敬の念をはぐくむ場として、鎮魂の森・震災復興祈念公園及び防災拠点施設の整備、三陸復興国立公園の整備を図ります。

集中復興期間
集中復興期間以降
H23年度
H24年度
H25年度
H26年度
H27年度
H28年度
H29年度
H30年度
H31年度
H32年度
資源の魅力を生かした観光の展開
観光戦略会議の設置と関連団体の組織強化支援
自然公園の園地等の整備
被災海水浴場の砂浜復元
観光施設等の整備
「道の駅」の復旧・整備
唐桑地域体験施設等の整備
ＪＲ新駅の周辺整備
観光看板等の再整備
宿泊施設整備支援
震災の教訓を活かした地域再生観光
平泉世界遺産連携等広域観光推進
外国人観光客誘致促進
観光イベント支援
誘客宣伝支援
ホヤぼーやプロジェクト
観光関連学科等の誘致
食のまち観光物産推進
産業観光の推進
コンベンション機能の整備


集中復興期間
集中復興期間以降
H23年度
H24年度
H25年度
H26年度
H27年度
H28年度
H29年度
H30年度
H31年度
H32年度
資源の魅力を生かした観光の展開
大島地区周遊交通機能の整備
国立鎮魂の森及び震災復興・防災祈念公園の整備
三陸復興国立公園の整備

重点事業１　観光戦略会議の設置と関連団体の組織強化支援
［実施主体：市・民間等　実施地域：全域］

現　状 （課題）	自然公園や観光施設のみならず、さまざまな観光メニューが被災していますが、本市の産業振興における観光の役割は被災後ますます重要になっており、新たな観光戦略の構築と集客力の強い施策の実施が求められています。 また、気仙沼観光コンベンション協会をはじめとする関連団体は、会員の多くが被災したことから、今後の観光復興のために、組織の強化、営業力の強化を図らなければなりません。
事業概要	若者の意見等も反映した新しい観光戦略を構築するため、観光戦略会議を設置するとともに、観光関連団体のより一層の連携と地域や産業の枠を越えた情報の共有化を図り、物産関連団体と協調した競争力に満ちた「チーム気仙沼」による観光施策を企画・推進します。 ＜具体的な取組＞ 被災状況の分析による観光資源の再生方針の検討 企画力・営業力向上のための研修会等実施 長期滞在型観光も視野に入れた新しい観光メニュー、周遊ルートの開発
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 事業実施
財源構成	市　民間等
区　分	創造的復興

重点事業２　自然公園の園地等の整備
［実施主体：国・県・市　実施地域：全域］

現　状 （課題）	陸中海岸国立公園、南三陸金華山国定公園、宮城県立自然公園は、海岸部を中心に地震・津波により大きな被害を受けており、観光資源として早期の復旧が求められています。
事業概要	観光資源の再生のため、階上（岩井崎・お伊勢浜）、大島、唐桑、本吉それぞれにある自然公園の園地や付帯施設の復旧を行い、観光客を受け入れる基盤を整えます。 ＜具体的な取組＞ 倒木・漂流物等の撤去、景観の整備、遊歩道・あずまや・トイレ・駐車場・体験施設などの復旧
実施期間	Ｈ２３年度～Ｈ２５年度
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討　事業の実施
財源構成	国　県　市
区　分	復旧

重点事業３　被災海水浴場の砂浜復元

［実施主体：国・県・市　実施地域：気仙沼地域・本吉地域］

現　　状（課題）	市内４箇所の海水浴場（小田の浜・お伊勢浜・大谷海岸・小泉海岸）において砂浜が流失するなどの被害が生じています。
事業概要	観光資源の再生のため、学識経験者による研究や他の先進事例を参考として、被災した海水浴場の復旧を目指します。 砂浜の復元を進める中で、松林の再生、照葉樹の活用、湿地帯の活用を検討するとともに、必要な施設整備を行います。 小泉海岸においてはサーフポイントとしての魅力向上のための整備を検討します。
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討 砂浜復元の検討及び取組
財源構成	国　県　市
区　　分	復旧　創造的復興

重点事業４　観光施設等の整備

［実施主体：県・市・民間等　実施地域：全域］

現　　状（課題）	津波によって海岸部にある市所管の観光施設（観光物産センター、南町海岸駐車場、浮見堂、岩井崎プロムナードセンター、亀山リフト、公衆トイレなど）が大きな被害を受けており、施設とその周辺整備のあり方が課題となっています。 津波被害がなかった施設（漁火パーク、唐桑半島ビジターセンター・津波体験館、国民宿舎からくわ荘）にも、地震による一部損壊が見られます。
事業概要	被災施設については、費用が国から措置される期間内での撤去を進めるとともに、市内全体の観光戦略として集客力の強い施設の再整備を検討し、デジタルフィールドミュージアムの手法も取り入れるなど、それぞれの地域に応じた対応を進めます。 ＜具体的な取組＞ 観光物産センター、岩井崎プロムナードセンター、亀山リフトの解体・撤去 南町海岸駐車場の応急復旧、浮見堂の復旧 地震による一部損壊箇所の修繕・公衆トイレの整備
実施期間	Ｈ２３年度～Ｈ２９年度
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 施設の解体・撤去・応急復旧・修繕 整備方針の検討 実施設計～再整備等
財源構成	県　市
区　　分	復旧　復興　創造的復興

重点事業５　「道の駅」の復旧・整備［再掲］

［実施主体：国・市・関係団体　実施地域：唐桑地域・本吉地域］

現　　状 （課題）	市内唯一の道の駅であった「大谷海岸はまなすステーション」が津波により壊滅的な被害を受け、仮復旧した一部店舗により販売が行われています。 三陸縦貫自動車道のルートを見据え、唐桑地区への新たな道の駅の設置を検討する必要があります。
事業概要	道の駅「大谷海岸はまなすステーション」の改修及び新たな道の駅の整備を図ります。 新たな道の駅は、南の玄関口と位置付けられる本吉地域の「はまなすステーション」に対して、北の玄関口と位置付けられる唐桑地域への設置を検討します。
実施期間	Ｈ２３年度～Ｈ２９年度
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 はまなすステーションの改修・整備 新施設の整備計画決定、 新施設整備
財源構成	国　市　民間等
区　　分	復旧　復興　創造的復興

重点事業６　唐桑地域体験施設等の整備

［実施主体：市　実施地域：唐桑地域］

現　　状 （課題）	唐桑地域は、本市の観光エリアとしては比較的被害が少なく、観光施設も営業を再開し、新たに観光物産と漁業や復興の状況を結び付ける活動が実りつつあるため、唐桑地域にふさわしい体験型観光の拠点整備が必要となっています。
事業概要	新たな観光資源の創造による魅力向上を図るため、教育旅行、産業観光等の拠点として、漁業体験型施設を整備します。 なお、国立公園の集団施設地区にある唐桑半島ビジターセンター・津波体験館、国民宿舎からくわ荘、御崎野営場の活用も図り、唐桑地域への誘客を進めます。
実施期間	Ｈ２３年度～Ｈ２７年度
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討 実施設計～事業実施 誘客の促進
財源構成	県　市　民間等
区　　分	創造的復興

重点事業７　ＪＲ新駅の周辺整備

［実施主体：市・民間等　実施地域：気仙沼地域］

現　　状（課題）	南気仙沼駅をはじめ今回被災したＪＲの駅は、それぞれの観光地への玄関口であったことから、新駅周辺の魅力の創造と観光客の利便向上のための施設整備が必要です。
事業概要	市街地の魅力向上と誘客拡大を図るため、新駅のＪＲによる再整備に合わせ、観光客を受け入れるための駅周辺の環境整備を行います。 ＜具体的な取組＞ 観光案内所の設置、駅前ロータリー・園地整備、二次交通網の整備、震災モニュメント・アート設置など
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 周辺整備方針の検討 → 実施設計～周辺整備等
財源構成	国　県　市　民間等
区　　分	創造的復興

重点事業８　観光看板等の再整備

［実施主体：市・民間等　実施地域：全域］

現　　状（課題）	観光地に設置されている観光看板のうち約１０基が被災し使えない状況となっています。
事業概要	被災した観光看板等を再整備することで、観光客の利便性の向上を図り、市内周遊観光を推進し、地域の活性化を目指します。 ＜具体的な取組＞ 被災看板の再整備及び外国語表記による国際観光への対応など
実施期間	Ｈ２３年度～Ｈ２５年度
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討 → 実施設計～再整備等
財源構成	県　市　民間等
区　　分	復旧

重点事業９　宿泊施設整備支援
［実施主体：県　実施地域：全域］

現　　状 （課題）	震災により、多くのホテル・旅館・民宿などが被災しており、事業の再開のための支援が求められています。
事業概要	観光客の受け入れ態勢の再整備のため、被災した宿泊施設の修繕等を支援し、再建に向け、宮城県が実施する観光施設再生支援事業による補助金の活用を進めます。
実施期間	Ｈ２３年度～Ｈ２５年度
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 事業実施
財源構成	国　県
区　　分	復旧

重点事業10　震災の教訓を活かした地域再生観光
［実施主体：市・民間等　実施地域：全域］

現　　状 （課題）	自然や食を活用したこれまでの観光メニューが被災により見直しを迫られていますが、被災地への興味や復興支援、防災学習など目的とした来遊者が増えており、震災を受けた土地ならではの観光の展開が課題となっています。
事業概要	震災の教訓を活かした新たな観光プログラム構築のため、食や地域文化を活用した体験型メニューに加え、東日本大震災の教訓を後世に語り継ぐメニューを創出するなど、着地型観光の企画・実施を進めるとともに、コミュニティ・ビジネスの立ち上げを支援します。 ＜具体的な取組＞ 防災学習、環境教育、大漁旗や伝統芸能、郷土料理、地酒など地域文化の学習と体験のメニュー化など
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討　事業の実施
財源構成	県　市　民間等
区　　分	創造的復興

重点事業11　平泉世界遺産連携等広域観光推進
［実施主体：県・市・民間等　実施地域：全域］

現　状（課題）	伊達な広域観光推進協議会や仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会などに参画し、広域観光の推進に努めています。
事業概要	平泉の世界遺産登録を踏まえ、広域連携による取組をより一層推進するとともに、震災の経験を活かした被災地観光の展開により、国内はもとより、外国人旅行客の誘致拡大を図ります。 ＜具体的な取組＞ 平泉町、一関市、栗原市、松島町、仙台市などの周遊ルートの形成
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 広域連携による各種施策の実施
財源構成	県　市　民間等
区　分	創造的復興

重点事業12　外国人観光客誘致促進
［実施主体：市・民間等　実施地域：全域］

現　状（課題）	被災により本市は世界各国から支援を受け認知度も高くなっており、加えて平泉の世界遺産登録により東北への観光が注目を集めていることから、時期を逸することなく外国人観光客の誘致活動を行う必要があります。
事業概要	被災後の気仙沼の知名度の向上を観光誘客につなげるため、被災と復旧・復興の情報発信に努めるとともに、平泉世界遺産や仙台・松島との広域連携を図り、外国人観光客の誘致促進を目指します。 ＜具体的な取組＞ エコツアーなどニーズに合わせたメニューの開発、海外情報誌やインターネットによる情報発信、支援を受けた外国や各種団体との交流継続、パンフレット・案内サイン等の外国語表記、人材育成、国・県等の誘客事業への参画など
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 事業の実施
財源構成	国　県　市　民間等
区　分	復興

重点事業13　観光イベント支援

［実施主体：市　実施地域：全域］

現　　状 （課題）	本市の復興に向けた市民の取組に対し、観光客の呼び込みの面から支援が求められています。
事業概要	観光資源の創造を図るため、市内で観光イベント（交流人口の拡大に資するもの）を行うものを対象に支援を検討します。
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討　事業の実施
財源構成	県　市　民間等
区　　分	復興

重点事業14　誘客宣伝支援

［実施主体：市　実施地域：全域］

現　　状 （課題）	各地で開催されている復興支援イベントへの参加に対し、観光誘客宣伝の面から支援が求められています。
事業概要	市内への誘客拡大を図るため、市外のイベントに参加するなど、本市のＰＲと誘客を図るものを対象に支援を検討します。
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討　事業の実施
財源構成	県　市　民間等
区　　分	復興

重点事業15　ホヤぼーやプロジェクト

［実施主体：市・民間等　実施地域：全域］

現　　状 （課題）	全国へ向けた観光ＰＲをより効果的に実施するため、観光キャラクターを決定し、各種宣伝に活用しています。
事業概要	観光キャラクターを活用した事業展開を図り、地域活性化を推進します。 ＜具体的な取組＞ 観光キャラクターを使用した商品開発の承認など
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討と要綱等の整備 → キャラクターの活用による事業の実施
財源構成	市　民間等
区　　分	復興

重点事業16　観光関連学科等の誘致

［実施主体：市　実施地域：全域］

現　　状 （課題）	観光に関する本市の総合力の向上や人材育成などを図るため、観光を専門に学ぶ学科の誘致や若者の定住を促す必要があります。
事業概要	観光分野での人材育成や産学官が連携した観光都市づくりを推進するため、大学や専門学校の観光関連学科等の誘致を図るとともに、大学生などによる災害ボランティアなど被災地の再生に向けた体験型観光の発信を進めます。
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討 → 事業の実施
財源構成	国　県　市　民間等
区　　分	創造的復興

重点事業17　食のまち観光物産推進
［実施主体：市・民間等　実施地域：気仙沼地域］

現　　状 （課題）	被災により食の生産から加工、流通、小売までラインが途絶えましたが、いち早い復旧・復興のシンボルとしての施設整備と食のまちとして復活する市民意識の醸成が必要であります。
事業概要	本市最大の観光拠点であった「海の市」が被災したことから、着地型観光情報の積極的発信による集客力増に向け、ショッピングモール的な発想も含め、食のまちをテーマとした新たな観光物産施設の整備を図ります。 併せて、地元食材を使用した飲食店等の推奨制度を導入します。
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討　実施設計～施設整備 推奨制度等の取組の実施
財源構成	市　民間等
区　　分	創造的復興

重点事業18　産業観光の推進
［実施主体：市　実施地域：全域］

現　　状 （課題）	生産・製造の現場見学や体験が産業観光として人気を高めており、本市においても施設整備を促す必要があります。 また、被災した事業所の復旧・復興にあたっては、産業観光への協力を求めることが必要となっています。
事業概要	新たな観光資源の創造と企業イメージの向上など、産業観光のメリットを事業所に対して紹介するとともに、復旧する事業所には見学しやすい施設の整備に協力を求めていきます。 なお、今後の産業観光の推進策として市の支援についても検討します。
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 支援策の検討 事業の実施
財源構成	国　県　市
区　　分	創造的復興

重点事業19　コンベンション機能の整備
［実施主体：市　実施地域：気仙沼地域］

現　状 （課題）	交流人口の拡大にはコンベンション（ＭＩＣＥ）の誘致が大きな効果をもたらしますが、公民館施設等の被災により収容力が落ちている現状にあります。世界に開かれた産業のまちの構築に向け、国際会議にも対応できる施設の整備が必要です。
事業概要	市外からのコンベンション誘致を推進するためのコンベンション機能を整備し、地域文化の伝承や地域カルチャーの発信拠点として活用することで、交流人口の増加を図り地域活性化につなげます。 具体的な整備については、被災した公民館の今後の整備方針とも一体に検討します。
実施期間	Ｈ２３年度～Ｈ２６年度
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討　事業の実施
財源構成	国　県　市　民間等
区　分	創造的復興

重点事業20　大島地区周遊交通機能の整備
［実施主体：市・民間等　実施地域：気仙沼地域］

現　状 （課題）	大島架橋の完成により島内に自動車があふれることを防ぐとともに、観光客の快適な周遊と環境に配慮した交通機能が求められています。
事業概要	大島架橋完成を見据え、気仙沼大島振興推進会議における検討も踏まえながら、大島島内の自動車乗り入れを制限し、環境に配慮した周遊交通機能の整備を図ることで、大島観光に新たな魅力を付加します。 ＜具体的な取組＞ ＢＤＦ車やエコカーを利用した島内周遊バスなどの運行など
実施期間	Ｈ２３年度～Ｈ３０年度
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討と取組の実施
財源構成	市　民間等
区　分	創造的復興

重点事業21　鎮魂の森及び震災復興・防災祈念公園の整備
［実施主体：国　実施地域：気仙沼地域］

現　状 （課題）	国の復興構想として「災害の記録と伝承」や「地元発意による鎮魂の森等の整備」がうたわれており、本市においても、今回の大震災で犠牲になられた多くの方々の鎮魂と、震災の記憶・記録を後世に伝える必要があります。
事業概要	安波山及び周辺地区に鎮魂の森を整備するほか、復興のシンボルとして復興祈念公園と防災拠点施設を整備し、全国から多くの方々が訪れることで地域活性化を推進します。 併せて、地盤沈下等の現状の活用など震災の様子を伝える工夫を行います。
実施期間	Ｈ２３年度～Ｈ２７年度
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 方針の検討　→　実施設計～事業実施
財源構成	国　民間等
区　分	創造的復興

重点事業22　三陸復興国立公園の整備
［実施主体：国・県・市　実施地域：全域］

現　状 （課題）	甚大な被害を受けた陸中海岸国立公園や南三陸金華山国定公園を含む青森、岩手、宮城の海岸線を一体の国立公園として整備する環境省の構想があり、本市としても国による整備を要望しています。
事業概要	現在、青森県種差海岸から宮城県の松島までの６つの自然公園を再編し、「三陸復興国立公園」（仮称）を整備する構想が検討されており、本市としても国や県が行う震災を記録継承する施設の整備や緊急避難路の整備などに積極的に協力するとともに、観光資源として活用を図ります。
実施期間	Ｈ２３年度～
取組内容	H23年度　H24年度　H25年度　H26年度　H27年度　H28年度　H29年度　H30年度　H31年度　H32年度 三陸復興国立公園（仮称）整備への協力・活用
財源構成	国　県　市
区　分	創造的復興